

進化した機能水

20Lタイプ



弱酸性除菌水



弱酸性除菌水の除菌力や使用コスト、メリットなどをアルコール、次亜塩素酸ナトリウムと比較してお伝えします。

Q.弱酸性除菌水とは？

食品添加物指定の塩酸と次亜塩素酸ナトリウム、水を混合して作られる、弱酸性の次亜塩素酸水溶液です。

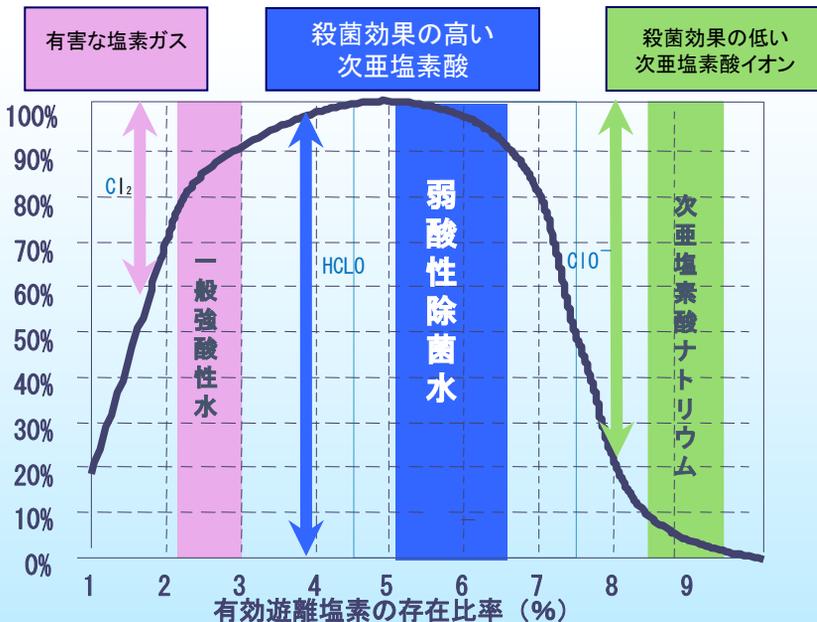
弱酸性除菌水のメリット

①強力な除菌力

幅広いスペクトルを持ち、短時間で除菌可能。

②環境面メリット

人体にも環境にも安全なため、水道水同様にご使用が可能。



殺菌の主体成分である次亜塩素酸が一番含まれるpH領域に調整



Q.弱酸性除菌水の使用用途は？

- スプレーで、机やドアノブの除菌対策に。(消臭効果期待)
- つけおきで、調理器具や布巾、衣類などを除菌。
- 拭き掃除に使用すると、除菌が行えます。
- 空間除菌加湿器

超音波タイプの加湿器で、加湿にプラス除菌を。(消臭効果期待)



Q.アルコール、次亜塩素酸ナトリウムと比べて弱酸性除菌水のメリット・デメリットは？

	メリット	デメリット
アルコール	<ul style="list-style-type: none">・速乾性がある為、スプレーするだけ・除菌シートなど、様々な形で多く販売されている	<ul style="list-style-type: none">・揮発性が高く、手あれを起こす・空間除菌には向かない・ノロ、ロタウイルスには効果が低い・価格が高価・濡れていると効果が激減する
次亜塩素酸ナトリウム	<ul style="list-style-type: none">・殺菌料として食品添加物に指定されている・価格が安価	<ul style="list-style-type: none">・塩素臭が残る為すすぎを十分にする必要がある・高濃度のものは人体へ刺激が強い
弱酸性除菌水	<ul style="list-style-type: none">・肌に近いpHの為、手あれしにくい・インフルエンザ、ノロウイルスに効果が高い・価格が安価	<ul style="list-style-type: none">・速乾性がない(拭き取りが必要)



仕様 弱酸性次亜塩素酸水溶液

外形寸法

縦30cm 横30cm 高さ33cm

容量 20L

※ご使用前に塩素濃度チェックをしてください。
※直射日光、高温を避け冷暗所に保管して下さい。品質劣化の恐れがあります。
※皮膚炎、湿疹などが現れた場合は使用を中止し、医師の相談を受けて下さい。
※別売りで塩素試薬がございます。



ガンスプレー



プッシュボトル

各種

容量 500ml



仕様 超音波噴霧器

噴霧量 約300cc/時間

適用床面積 ~14畳

外形寸法

横21.5cm 縦17.5cm 高さ32cm

Q.弱酸性除菌水とアルコール、それぞれのコストは？

アルコール

1ℓあたり ￥500～￥1,500

高価な為、器具洗淨や清掃にも
思ったように使用できない。



弱酸性除菌水

1ℓあたり ￥150

20ℓで ￥12,000 ※4倍希釈 80ℓ換算

空間除菌や器具洗淨もでき、
価格もおさえられて**経済的**！



よくあるご質問 Q&A

Q どの様な所で保管すればよいですか？

A 直射日光を避け、冷暗所で保管して下さい。

Q 保存期間はどのくらいですか？

A 約3ヶ月です。使用期限に限らず、開封後はお早めにお使い下さい。

Q 別の容器に移し替えて使用しても良いですか？

A 使用していただいて構いません。遮光性のボトルをお勧めします。

Q どの様な加湿器を使用しても良いですか？

A 超音波加湿器でのご使用をお願いします。
当社指定の加湿器をお勧めします。

Q 飲んでも大丈夫ですか？

A 身体に害はございませんが、飲み物ではないので飲まないで下さい。

殺菌効果データ

試験菌	1ml当りの生菌数			
	初発菌数	1分後	3分後	5分後
大腸菌	1.9×10^6	<10	<10	<10
	1.9×10^6	<10	<10	<10
	1.9×10^6	—	—	9.5×10^5
黄色ブドウ球菌	1.0×10^6	<10	<10	<10
	1.0×10^6	<10	<10	<10
	1.0×10^6	—	—	8.2×10^5
腸炎ビブリオ	1.0×10^6	<10	<10	<10
	1.0×10^6	<10	<10	<10
	1.0×10^6	—	—	6.5×10^5
緑膿菌	1.4×10^6	<10	<10	<10
	1.4×10^6	<10	<10	<10
	1.4×10^6	—	—	8.3×10^5
レンサ球菌	1.9×10^5	<10	<10	<10
	1.9×10^5	<10	<10	<10
	1.9×10^5	—	—	3.4×10^5

試験菌	1ml当りの生菌数			
	初発菌数	1分後	3分後	5分後
セレウス菌	1.6×10^5	1.1×10^2	<10	<10
	1.6×10^5	2.0×10^5	1.5×10^5	7.4×10^4
	1.6×10^5	—	—	2.0×10^5
枯草菌	4.3×10^5	3.0×10^5	2.0×10^3	<10
	4.3×10^5	4.1×10^5	4.2×10^5	3.8×10^5
	4.3×10^5	—	—	4.4×10^5
カンジダ	2.1×10^6	<10	<10	<10
	2.1×10^6	2.5×10^3	<10	<10
	2.1×10^6	—	—	3.2×10^6
黒コウジカビ	1.1×10^5	7.5×10^3	3.4×10^3	4.4×10^2
	1.1×10^5	1.7×10^5	1.4×10^5	5.8×10^4
	1.1×10^5	—	—	1.8×10^5

セレウスソフト水	残留塩素50ppm pH6.0
次亜塩素酸ナトリウム	有効濃度 200ppm
生理食塩液	

初発菌数：各消毒剤に接触させる前の菌数

<10：検出限界以下です。菌が検出されていません。

—：検査を実施していません。

食中毒原因ウイルス【ノロウイルスの不活化効果】

ネコカリシウイルス (ノロウイルスの代替ウイルス) 感染価測定結果

試験ウイルス	対象	log TCID ₅₀ /ml *2			
		開始時	90 秒後	180 秒後	300 秒後
ネコカリシウイルス*1	ハイクロソフト水 ph6.5 有効塩素濃度 50ppm	5.7	<1.5	<1.5	<1.5
	セリウスソフト水 ph6.5 有効塩素濃度 50ppm	5.7	<1.5	<1.5	<1.5
	対 照	5.7	***	***	6.3

TCID₅₀ : median tissue culture infective dose, 50%組織培養感染量

*1 ノロウイルスの代替ウイルス *2 作用液 1ml 当たりの TCID₅₀の対数値

出典 財団法人日本食品分析センターより

【病原ウイルスの不活化効果】

ソフト酸化水の抗ウイルス効果

ウイルス (菌数)	培養細胞	5sec	15sec	30sec	1min	5min	10min	20min
アデノウイルス8株 (10 ²)	HEp-2		-	-	-	-	-	-
SFV (10 ⁶)	HEp-2		-	-	-	-	-	-
HSV 1 (10 ^{6.2})	Vero	+	+	+	-	-	-	-
HSV 2 (10 ^{4.8})	Vero	+	+	+	+	-	-	-
インフルエンザA/PRB (10 ⁴)	MDCK	-	-	-	-	-	-	
アデノウイルス3株 (10 ⁵)	HEL	+	+	+	+	+	-	